

ガイドランスカウンセラーの挑戦 4

養護教諭によるコーディネートの実践

福岡県宇美町教育委員会立学校教育課指導主事

長しのぶ

文部科学省は、「児童生徒の教育相談の充実について（通知）」で、不登校・いじめ等の児童生徒に組織的に支援・対応するために教育相談コーディネーターを中心とした教育相談体制を構築することが必要であると述べている。また、「生徒指導提要」では、心の問題を身体症状で訴える児童生徒が増えている中、教育相談の組織に占める養護教諭の存在と役割は大きくなっていると述べている。

教育相談組織の重要な役割を担っている養護教諭は、その専門性と保健室の特性を生かして、児童生徒がかかえる心の問題を早期発見・早期対応を行っている。養護教諭は日常的にSC・SSWと連携して組織的対応を行い、必要に応じて外部関係機関につなぐことも可能な、教育相談のキーパーソンである。その養護教諭が、ガイドランスカウンセラーの資格を持ってコーディネートに取り組んだ。

1 早期発見のための情報収集と整理（「先手必勝会議」）

いじめ・不登校等の児童生徒の心の問題を長期化・深刻化させないためには、その兆候を早期に発見することが重要である。養護教諭は、毎日の健康観察で児童生徒の健康状況、欠席黒板（毎朝、教職員によって欠席・遅刻・早退者の氏名と理由が記入される黒板）による児童生徒の動向、保健室来室状況による児童生徒の心と体の様子等の情報を集約することができ、これらの情報に、学校が実施している生活アンケート・いじめアンケートやQ/U等の実態調査の情報とを合わせることで、気になる、気になければならない児童生徒をリストアップできる。

このリストを元に、支援が必要な児童生徒を絞り込む会議が『先手必勝会議』である。検討が円滑に進むように、養護教諭は、表1に示す一覧表を作成し、関係職員と情報共有を図る。その際、大切にしていることは、学級担任からの正確で客観的な情報を得ることである。健康観察の結果は、保健室で集約し

ているが、実際は、学級担任が行う健康観察をまとめていくにすぎない。より正確な情報を集約するためには、体調の不調を正直に報告できる学級の温かい雰囲気や、児童生徒の心と体の不調を読み取る学級担任の力量が不可欠である。また、欠席黒板も正確さが求められる。理由の明記、遅刻・早退の時刻の記入はとても重要で、この変化で児童生徒の心の変化を把握できる。したがって、学級担任をはじめ全職員の協力なしでは、児童生徒の動向は把握できない。健康観察や出欠の状況がとても重要であること、観察のポイント、

表1 不登校・不登校傾向 配慮が必要な生徒一覧表

不登校・不登校傾向 配慮が必要な生徒一覧表										令和6年6月	授業日数	42日				
不登校レベル	S 全欠 連絡が取りにくい									緊急度 (※級会議)	1 拡大ケース会議					
	A ほとんど登校できていない。連絡で欠席が続いている。連絡は取れるが										2 校内ケース会議					
B 欠席が多く、登校できても、遅刻・早退、別室登校等に対応し、教室復帰には課題がある									3 学年会							
C 登校できているが、心配な要因を持っている									4 本人と面談							
No	年組	氏名	性別	不登校レベル	欠席	遅刻	早退	別室登校	不登校指数	SC SSW	状況	課題・気になる点	緊急度	日程	担当	今後の対応 (検討後、記入)
1	1の1	I・A	女	C	3	6	0		6.0		小、保健室登校 障(欠)、登校時不登校 非承認	施設で3日不登校、 登校後3日不登校 非承認	4→3	今週	A 先生	
2	1の2	G・S	女	C	15	5	5		20.0		骨折による入院・通院 不満足	入院・通院による学習の 遅れへの対応が必要で いる。	4→3	今週	A 先生	
3	2の1	Y・M	女	B	7	24	0		19.0	SC(保) (本人)	小、不登校 要支援	最近、発病頻度が 高まっている。	4→2	来週調整	B 先生	
4	2の2	N・R	男	B	5	25	10		22.5	SC(保) (保)	施設及び 来年度より情緒学習に特 化を行う見込み	高学年のトラブルが 増えている。	4→2	来週調整	B 先生	
5	3の1	K・I	男	S	42	0	0		42.0	SSW	かなりより不安不登校 史(欠)・早退・早退のま り完全不登校 Q/U未 済	保護者との不調はない が、保護者からの不安 が大きい。	1	S・SSWと 調整	C 先生	
6	3の2	E・M	女	C	0	2	2		2.0	SSW	障(欠)が続く 要支援	保護者もいない、前 後、登校もしていない 状態	4→3	今週	D 先生	
7	3の2	S・R	男	A	21	9	0		25.5	SC(保) (本人)	施設治療中 (約10 日)	施設で治療中 (約10日) 病状不明	4→1	SCと調整	C 先生	

3年4組5番		氏名		性別		生年月日		学籍番号	
1年	転入	福岡	北島	男	○	○	001099-100-0007	001099-100-0007	001099-100-0007
2年	在籍								
3年	在籍								
4年	在籍								
5年	在籍								
6年	在籍								
7年	在籍								
8年	在籍								
9年	在籍								
10年	在籍								
11年	在籍								
12年	在籍								
13年	在籍								
14年	在籍								
15年	在籍								
16年	在籍								
17年	在籍								
18年	在籍								
19年	在籍								
20年	在籍								
21年	在籍								
22年	在籍								
23年	在籍								
24年	在籍								
25年	在籍								
26年	在籍								
27年	在籍								
28年	在籍								
29年	在籍								
30年	在籍								
31年	在籍								
32年	在籍								
33年	在籍								
34年	在籍								
35年	在籍								
36年	在籍								
37年	在籍								
38年	在籍								
39年	在籍								
40年	在籍								
41年	在籍								
42年	在籍								
43年	在籍								
44年	在籍								
45年	在籍								
46年	在籍								
47年	在籍								
48年	在籍								
49年	在籍								
50年	在籍								
51年	在籍								
52年	在籍								
53年	在籍								
54年	在籍								
55年	在籍								
56年	在籍								
57年	在籍								
58年	在籍								
59年	在籍								
60年	在籍								
61年	在籍								
62年	在籍								
63年	在籍								
64年	在籍								
65年	在籍								
66年	在籍								
67年	在籍								
68年	在籍								
69年	在籍								
70年	在籍								
71年	在籍								
72年	在籍								
73年	在籍								
74年	在籍								
75年	在籍								
76年	在籍								
77年	在籍								
78年	在籍								
79年	在籍								
80年	在籍								
81年	在籍								
82年	在籍								
83年	在籍								
84年	在籍								
85年	在籍								
86年	在籍								
87年	在籍								
88年	在籍								
89年	在籍								
90年	在籍								
91年	在籍								
92年	在籍								
93年	在籍								
94年	在籍								
95年	在籍								
96年	在籍								
97年	在籍								
98年	在籍								
99年	在籍								
100年	在籍								

2 早期対応のための情報の整理と分析チーム支援シート

児童生徒の心身の問題の把握は全職員で取り組んでいること、そして、貴重な情報をいただいていることに感謝していることを伝えるように心がけている。

このようにして集約した情報は、状況を整理し緊急度や対応レベルを生徒指導委員会で検討し共有している。会議に参加できないことが多いSCやSSWには事前に、情報や意見をいただいおくことさらに効果的である。不登校・不登校傾向の対応が必要な児童生徒の状況を確認するだけではなく、つまりさきような兆候のある児童生徒を把握することに重点を置いている。それが、『先手必勝会議』の目的であり、不登校未然防止の一手を打つチャンス逃さないことが重要である。

図1 チーム支援シート

支援する際には、適切な課題分析（アセスメント）と目標設定、支援チームづくりが重要である。支援チームのメンバーが情報を共有するためのチーム支援シートが必要である。

図1のように、欠席状況やこれまでの経緯、これからの対応を記入するシートに、家族構成（ジェノグラム）を中心に社会関係図（エコマップ）いわゆる支援チームを外側に示し可視化することで、担当者が明確になり、具体的な支援策が提案できる。このシートは関係者で回覧し、随時、対応や経過を記入していく。また、記録をふりかえることで、対応を再検討し、計画的に進めることができる。特に、行事の前には、状況を確認し、行事参加をきっかけに改善につながるように具体的な支援を計画的に仕組んでいくことができる。

また、SCやSSWとの情報共有も一目瞭然なので、打合せの時間短縮にもなる。養護教諭が持つ学校医や地域の医療機関等のリソースに加え、SC・SSWが持つより専門的な外部機関との連携はとても有効である。

このシートを活用する際、『虫の目・鳥の目・魚の目』の三つを大切にしている。

『虫の目』 児童生徒の現状を詳細に把握し、アセスメントすること。問題点を深く掘り下げ具体的な支援につなぐ注意深い視点である。

『鳥の目』 本人をとりまく状況やこれまでの経緯を俯瞰してみる。どこからアプロ

チするか、どのような支援が必要か、どのようなリソースがあるかを把握できる。『虫の目』で分析した情報をつなげ、新しい切り口を見つける広い視点である。

『魚の目』 先を見据えて、変化に応じてどのタイミングで行動すべきかを見極める流れを感じ取る時間軸的な視点である。

この三つの目で、児童生徒を中心に据え、その家庭をとりまく社会資源の役割を明確にし、ネットワークをつくり、実践していく。

まとめ

ガイダンスカウンセラーである養護教諭は、保健室を活動の拠点とし、アンテナを高くし、情報を収集・整理・分析し、軽微な変化を見逃さない力、支える支援者をつなげる力、そして支援のタイミングを見極める力、磨かなければならない。そして、困難さをかかえている児童生徒に寄り添い支援していかなければならないが、その児童生徒の身近で、渦中の一人である学級担任や担当教師・保護者の葛藤や心労を理解し、支えていくことが、チーム支援を継続させ成果につなげるポイントであると考えられる。

参考・引用文献

- ・文部科学省「児童生徒の教育相談の充実について（通知）二〇一七年。
- ・文部科学省「生徒指導提要」二〇一〇年。
- ・河村茂雄編著『教育相談の理論と実際（改訂版）』図書文化、二〇一九年。
- ・早樫一男編著『対人援助職のためのジェノグラム入門』中央法規、二〇一六年。

1チするか、どのような支援が必要か、どのようなリソースがあるかを把握できる。『虫の目』で分析した情報をつなげ、新しい切り口を見つける広い視点である。

『魚の目』 先を見据えて、変化に応じてどのタイミングで行動すべきかを見極める流れを感じ取る時間軸的な視点である。

この三つの目で、児童生徒を中心に据え、その家庭をとりまく社会資源の役割を明確にし、ネットワークをつくり、実践していく。